

#### 6.4 総合まとめ（配慮策の効果について）

妙典橋の橋梁工事实施にあたり、詳細設計段階、施工段階において下記の通り、様々な環境配慮対策を取り入れて実施した。これらの対策について、対策の個々の効果については不明であるが、結果的に長年にわたるモニタリング調査の結果、トビハゼの生息状況や水鳥類の生息状況は、工事前と比べて顕著な差はみられなかった。

工事中も大きな環境の変化が生じなかった要因として、トビハゼや水鳥類の生息場や餌場である干潟・ヨシ原が適切に維持されたことが重要であったと考えられた。干潟上で実施した底質調査結果から、工事前から変わらず泥干潟が維持されていることがうかがえた。

そのため、下記の環境配慮対策はいずれも有効であったと考えられた。今後の類似の事業が生じた場合には、重要な環境を直接的に改変しないように配慮して施工を行うことを優先した配慮策の実施が有効であると考えられた。

#### ◆妙典橋建設における環境配慮対策（詳細は P. 17～P. 20 参照）

##### <設計段階の環境配慮対策>

- ・トビハゼ護岸を避けた橋脚配置
- ・橋梁構造を軽量化、最小化
- ・橋梁部の照明の工夫
- ・路面排水の処理の工夫

##### <施工時の環境配慮対策>

- ・干潟、ヨシ原を掻き乱さない施工
- ・施工時の作業構台を最小化
- ・施工時の騒音・振動対策
- ・工事の施工時期